

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

|         |  |           |       |         |     |
|---------|--|-----------|-------|---------|-----|
| 機 関 名   | 香川大学                                   |           |       |         |     |
| 取 組 名 称 | 現場主義に基づく地域づくり参画型教育                     |           |       |         |     |
| 取組学部等   | 経済学部地域社会システム学科                         |           |       |         |     |
| 申 請 区 分 | 教育方法の工夫改善を主とする取組                       |           |       |         |     |
| 整 理 番 号 | A22054                                 | 申 請 の 形 態 | 単 独   | 取 組 期 間 | 3 年 |
| 申請の分類   | 体験活動                                   | 職業教育      | 地域活性化 |         |     |
| キーワード   | 現場主義, 参画型教育, 地域づくり, 4年一貫型教育, 地域づくりマインド |           |       |         |     |

### ＜選定理由＞

本取組は、参画型教育、4年一貫型教育の実践と地域活性化という目的を掲げ、地域づくりマインドをもった人材育成に取り組んだプログラムとして高く評価できる。特に、課題発見、課題探求、解決策提案、解決策実践、効果検証という一連の訓練を4年間のタイムスパンで実行するという点については、理論と現場の交流という観点から見て、この取組の目的を達成する上で大きな意義を有するものである。また、学外との連携体制や実施体制を重視し、行政や観光協会、地域づくり団体等との「連絡協議会」を活用するという大学挙げての姿勢は、取組の実現性を高める試みと高く評価できる。

ただし、ツーリズムコース教員のこれまでの教育実績や活動をもとに、取組を学科・学部全体に全面展開していくには、取組目的についての全教職員の意識改革と理解・協力が必要である。さらに、学生の学習成果の指標を年次ごとに作成、提示することも望まれる。取組実施に当たっては、これらのことに対応しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

## 取組の概要【1ページ以内】

本取組の背景には、これまで経済学部地域社会システム学科のツーリズムコース教員2名によって、平成17年度から学部カリキュラムの中で部分的に行われてきた地域づくり参画型教育の効果が、非常に高かったことがあげられる。参画型教育の効果は、地域貢献への効果に加えて学生への教育効果が非常に高く、学習効果の上昇、責任感や連帯感の強化、地域や現場を重視する意識が顕著に高まったのである。また、社会的ニーズとして、地域からの強い要請があげられる。香川県では平成21年度にこれまでの観光まちづくりの成果を踏まえて「まち歩き博」が実施され、さらに翌22年度には芸術による地域再生のために瀬戸内海の島嶼で「瀬戸内国際芸術祭」が開催され、地域住民は世界中から訪れる観光客との交流を深めながら、地域活性化に取り組む。これら学外の動きに対して観光資源発掘調査など大学も地域住民とともに観光交流を通じた地域づくり活動への積極的な協力を要請されている。そこで、これまで部分的に行われてきた現場主義に基づく地域づくり参画型教育を4年一貫型教育として、ツーリズムコース教員8名を中心に学科・学部全体に全面展開させる形で本取組を実施する。

方法としては、大学(教員と学生)が、香川県でまち歩き型観光などの観光交流等により地域づくりを行っている現場に行き、1年次および2年次:現場の実態を知ると同時に、地域住民とともに地域づくりについての課題を見つける。講義(フィールドワークを行う専門教育科目)、プロゼミで行う。3年次:現場に何度も足を運びながら、課題を探求し、地域住民とともに解決策を考え、最終的に実行性の高い解決策を提案する。演習、実践型インターンシップとして取り組む。4年次:提案した解決策を地域住民とともに検討し、実行可能な形にして実践する。さらに、実践した効果の検証も行う。個別演習、卒業論文として取り組む。このような4年一貫型教育であり、実際に学生、教員が地域づくりに携わる参画型教育である。

この取組により、現場を重視する人材、課題探求・解決力のある人材、地域に貢献できる人材の養成を通じて、地域づくりマインドをもった人材を養成する。すなわち、地域の実態をこの目で確かめ、地域住民と共同作業を行うことによって、現場の大切さを認識できる人材。地域で活動している様々な年齢・経歴を持つ人々との議論の中で、教室での受身の講義だけでは得られない刺激を受け、自ら思考し、皆で議論し、自分の考えを深め、それを実践していける人材。具体的な地域づくり活動と大学教育での学問的手法をつなぐことができ、学問が実社会につながることを実感し、実践できる人材。また、地域づくり活動により達成感を得られ、地域に愛着をもち、主体的に活動を行う自信と行動力を持てる人材。このような人材を養成する。

また、本取組により地域活性化に積極的に貢献する。社会的ニーズとして地域からの強い要請に加え、香川県では瀬戸内海島嶼部、農山漁村を中心に高齢化、過疎化の進行している地域が多く、地域の衰退という課題を抱えている。本取組では学生と教員が地域住民とともに地域の抱える課題の解決策を考え、それを実践することにより、地域活性化に貢献する活動である。

この取組を実現し、実行性を高めるために、地域との連携、行政や地域づくり団体等との連絡協議会の活用、第三者を含む評価委員会の設置を行う。地域づくりに際して、地域との連携、信頼関係は欠かせない。連絡協議会では大学が協力できる参画型教育の内容(シーズ)と地域が抱えている課題(ニーズ)とのマッチングを行う。さらに、第三者を含む評価委員会では課題解決策の提案、解決策実施の効果検証の発表を行い、評価委員会から評価を受ける。